

2017年度 交換留学 留学報告書

日本語日本文学科 3年

留学先：フランス 西部カトリック大学

留学期間：2017年2月～2018年1月

私は留学を通して、自分の個性を周囲に発信することの楽しさを知りました。フランス語を話すことが出来ても、話す内容やその人自身に個性がないと意味がないのだということを、留学に行く前はきちんと理解できていなかったように思います。しかし実際にフランスに行ってみると、学校の人気者はフランス語が上手でなくとも、気にせず適当なフランス語で周りに自己を発信できる生徒たちでした。ほとんどスペイン語のようなめちゃくちゃなフランス語でよくクラスメイトに手紙を書いてくれる俳優のセザ、分からない単語は全て絵を描いて一生懸命自己紹介してくれた画家志望のヨンジュなど、個性あふれる学生がたくさんいました。楽しそうな彼らを見ているうち、言葉に自信がなくて黙っているよりも笑顔で自分を知ってもらおうという勇気が自然と湧いてきました。自分の個性を知ってもらう楽しさを知ったことは就職活動にも大いに役立ったと感じます。フランスで一年間、個性を発信することを楽しんで続けていたおかげで、面接などの自分を知ってもらうチャンスにめっぽう強く、自信をもって自分をアピールすることが出来ました。この学びはこれからもずっと私の世界を広げていってくれと思います。

実を言うと私が留学を志望した時、どうして留学したいのか、留学して何をしたいのかなど、あまり考えていませんでした。ただフランス語の勉強が楽しくて、フランス語を習った先から活用できる環境で勉強したいと漠然と思い、今考えると驚くほどの思い切りの良さで出願を決めました。時効だと信じて告白すると、留学前の面談で「留学を今後の進路にどのように活かすか」という問いに対して「留学経験を活かして将来翻訳者になりたい」などと言ったのは大幅な脚色を加えたものでした。それにしても翻訳者とは我ながら大きく出たものだと思いますが、それはともかく、将来どうしようかなんて実は具体的には考えていませんでした。はじめからはっきりした目標をもって留学を志望する人もいれば、私のように、漠然とした考えで志望する人もいるかと思います。しかし私が留学をしてみても感じたのは、この両者が留学を通して得られるものに差はないということです。留学してみれば成長のチャンスは平等に与えられていて、両者とも、そのチャンスを掴めるかどうかは留學生活をどう過ごすかにかかっています。ずっと前から留学したかったとか、将来海外で働く夢があるとか、そういうことは関係なく、努力できた人が成長するのだと私は思います。ですから、もしも留学を迷っている方がいらっしゃるのであれば、ぜひ挑戦してください。そしてたくさんのかたちを経験し、笑顔で帰国されることを願っています。